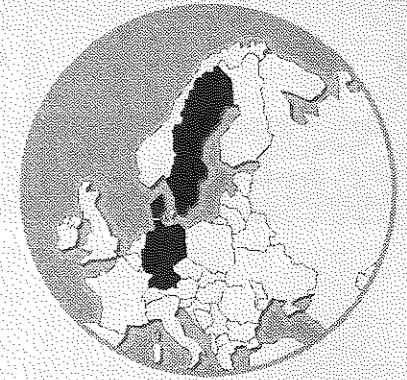


地球人になろう



環境問題は身近なごみ、水や空気の問題から地球規模で広がる温暖化現象まで幅広い。6月は環境月間。きょうから27日まで12回にわたり、「地球人になろう」をテーマに環境問題の特集する。県環境アドバイザーの海外視察の内容を紹介する「欧州ルポ」を前半5回で取り上げ、後半は県内の外国人や海外に住む本県出身者に各国の事情を聞く「異国見聞録」を掲載する。環境問題も「グローバルに考えてローカルに行動する」ことから始めよう。



増えているマイバッグ利用者—Aコープ安中店

ドイツの消費者が日常的に利用しているマイバッグ。一群馬ではあまり持っていない人を見かけない」と

どうなってる？

マイバッグ

3カ月(9-11月)の実施で、499店が参加し、72万2660枚のレジ袋を削減。石油1万4886リットルの節約になったという。

県もキャンペーン展開

一部スーパーで好評

マイバッグの推進は、店側にとっても環境保全への姿勢をアピールすることにもつながる。着実に広がっているように、実際はまだ定着に至っていないのも事実。県へ

県でも毎年のキャンペーンのほか、昨年からの地域を挙げて推進するモデル地域での実践をスタート。さらに「毎月1日はマイバッグの日」と定めて、年間を通じて普及運動に力を入れている。

小売店関係者は「マイバッグ推進は、顧客へのサービス低下にもなるので、消費者の理解と、地域全体で店が参加するような体制がないと難しい」と事情を打ち明ける。

積極的に推進しているのは県。2000年度から抽選で賞品が当たる特典方式でマイバッグキャンペーンを展開している。昨年度は

ぐんま

マイバッグの推進は、店側にとっても環境保全への姿勢をアピールすることにもつながる。着実に広がっているように、実際はまだ定着に至っていないのも事実。県へ

県でも毎年のキャンペーンのほか、昨年からの地域を挙げて推進するモデル地域での実践をスタート。さらに「毎月1日はマイバッグの日」と定めて、年間を通じて普及運動に力を入れている。



欧州ルポ —買い物—

ドイツデンマークスウェーデン
県環境アドバイザーは、県に登録して地域で自主的な環境保全活動を行う市民ボランティア。海外視察研修は、環境先進国といわれるドイツ、デンマーク、スウェーデンの事例を学ぼうと、5月27日-6月6日の日程で実施され、16人が自己負担で参加した。アドバイザーが見た欧州のデポジット制度、ごみ処理、自然エネルギーなどを紹介する。(文と写真・石黒淳)

■スーパーに置かれた回収機

海外でその国の人々の暮らしを知るには、地元のスーパーマーケットに足を運ぶのがよいという。市民の日常生活や食文化を垣間見ることが出来る。訪問した3カ国は、飲料の販売時に一定金額の容器代を上乗せし、回収時に返金する「デポジット制度」を採用。スーパーの

スーパーの回収機に空き容器を投入する市民
デンマーク・コペンハーゲン



ドイツのデポジット対象容器に付けられた「Pシステム」のマーク。0・25ユーロの料金が上乗せされていることを示す

ユース)されることになる。

■使い捨て容器も対象に

ドイツでは昨年1月から、それまで対象でなかった使い捨てのワンウェイ容器がデポジット制度に組み入れられた。対象はビール、ミネラルウォーター、炭酸清涼飲料水の缶やペットボトルで、デポジット料金は1.5リットルまでは0.25ユーロ(日本円で約35円=1ユーロ140円で換算)、それ以上は0.5ユーロ(同70円)になった。

従来から対象だったガラス瓶や厚いペットボトルなど再使用できる容器のデポジット料金は0.15ユーロ(同21円)であり、それより高く設定したことによって、環境負荷が大きいワンウェイ容器の抑制に効果が期待される。

制度の強化は、使い捨て容器が増えたことが原因。特に大規模ビール会社が大量生産する缶ビールが急増したため、新制度で対応した。このため、缶ビールを扱っていないスーパーも多かった。

全国統一の返金制度として新たに「Pシステム」もスタート。全国の駅やサービス施設の売店など約8万店が加盟し、加盟店ではどこでも返金してもらえる。しかし、自社ブランドの販売容器しか受け付けないスーパーチェーンがあったり、他国から持ち込まれた容器が対象外となるなど、複雑な仕組みにもなっている。

導入の際には、アルミ缶製造業者や設備コストが増加する流通、商品の値上げを嫌う消費者の間で反対も多かった。一方、空き缶や空きペットボトルを拾えば小遣い稼ぎになるため、街がきれいになったという。

デポジット制度が定着



瓶の飲料が並ぶスーパーの売り場
ドイツ

出入り口付近に使用済みのアルミ缶、ガラス瓶、ペットボトルを回収する機械が設置されているケースが多かった。

消費者が機械に容器を投入すると、その容器の種類・数に応じて、容器代が印字されたレシートが発行され、レジで返金される。機械のない店では、レジで直接、店員に空き容器を渡せば、返金してくれる。回収容器は洗浄されて再使用(リ